

学科	美容科	担当教員	宗像		
科目名	関係法規・制度	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	国家試験で合格点を取れる実力をつけるため、今までインプットした知識を適切にアウトプットできるように、実際の国家試験を用いて演習を重ね、知識の定着を図る。苦手意識の高い分野については繰り返し理解を促す講義を取り入れる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	関連法規（生衛法） <b>【到達目標】</b> 生衛法が何を規定しており、どのような制度を整えているかを説明できる				
2	関連法規（労働法・日本政策金融公庫法） <b>【到達目標】</b> 美容師が労働者としてどのように法律に守られているか、また経営者としてどのように労働者を使用するかのイメージをもつことができる。資金調達の際、日本政策金融公庫にはどのような制度が用意されているか説明できる				
3	関連法規（顧客に関する法律・保健所） <b>【到達目標】</b> 美容師・経営者の立場で関わる顧客に関し、どのような法律が用意されているか説明できる。保健所と美容師との関わりを述べるができる				
4	問題演習 1 <b>【到達目標】</b> 美容師免許の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
5	問題演習 2 <b>【到達目標】</b> 美容所開設の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
6	問題演習 3 <b>【到達目標】</b> 行政処分・罰則の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
7	問題演習 4 <b>【到達目標】</b> 総合問題・横断的な問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
到達目標	国家試験合格に向けて、美容師法の正確な知識を取得できているかを自ら確認しつつ、弱点を把握し、補強する。足りない知識についてはその都度見返し、自分の知識としていく。知識を用いて的確に問題の意図を掴み、正答する。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	教科書（関係法規・制度 公益社団法人日本理容美容教育センター） 1年次に使用したプリントを持参し、知識を確認する				

学科	美容科	担当教員	小池		
科目名	衛生管理(公衆・環境)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	①実務で使える技術知識を習得する②国家試験対策としても授業を進める③グループワークを通してコミュニケーション能力を向上させる④皆に自分の考え方を整理して伝達する機会とする				
授業回	学習内容			備 考	
1	公衆衛生 【出生と死亡・平均寿命と死亡率】に関する過去問題を分析し、覚えやすく整理しA4用紙にまとめて掲示する				
2	公衆衛生 【生活習慣病・喫煙・飲酒等】に関する過去問題を分析し、覚えやすく整理しA4用紙にまとめて掲示する			前回授業の小テスト 実施	
3	公衆衛生 【保健所・母子健康事業・健康日本21】に関する過去問題を分析し、覚えやすく整理しA4用紙にまとめて掲示する			前回授業の小テスト 実施	
4	【公衆衛生全体】に関してテスト形式で復習する。 解説を通して弱点を把握する			前回授業の小テスト 実施	
5	環境衛生 【空気環境・住居環境】に関する過去問題を分析し、覚えやすく整理しA4用紙にまとめて掲示する			前回授業の小テスト 実施	
6	環境衛生 【上下水道・廃棄物・衛生害虫】に関する過去問題を分析し、覚えやすく整理しA4用紙にまとめて掲示する			前回授業の小テスト 実施	
7	【環境衛生全体】に関してテスト形式で復習する。 解説を通して弱点を把握する			前回授業の小テスト 実施	
到達目標	実務に就いたときに必要となる知識技術を習得する				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	前回授業の確認資料(テスト形式)、ワーク用プリント				

学科	美容科	担当教員	小池		
科目名	衛生管理(感染症)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	①実務で使える技術知識を習得する②国家試験対策としても授業を進める③グループワークを通してコミュニケーション能力を向上させる④皆に自分の考え方を整理して伝達する機会とする				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章1節 感染症発見の歴史に関し、「人物と業績」を13名分(公衆衛生含む)について、グループで覚え方を考えてA4用紙にまとめて掲示する				
3	第1章2節 病原微生物 「細菌とウイルスの特徴」を、国家試験過去問題の分析を通して、要点を覚えやすくまとめ、A4用紙にまとめて掲示する			前回授業の小テスト 実施	
3	第2章1節・2節 感染症各論 「感染経路」に関する国試過去問題の分析とA4用紙によるまとめと掲示			前回授業の小テスト 実施	
4	第2章1節2節 感染症各論 「潜伏期間・就業制限」に関する国試過去問題の分析とA4用紙によるまとめと掲示			前回授業の小テスト 実施	
5	第2章1節・2節 感染症各論 「疾病の特徴」に関する国試過去問題の分析とA4用紙によるまとめと掲示			前回授業の小テスト 実施	
6	第1章3節 感染症の予防 「常在細菌叢・予防接種・感染症予防」に関する国試過去問題の分析とA4用紙によるまとめと掲示			前回授業の小テスト 実施	
7	今までの授業の総復習として国家試験過去問類似問題のテストとその解説			前回授業の小テスト 実施	
到達目標	実務に就いたときに必要となる知識技術を習得する				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	前回授業の確認資料(テスト形式)、ワーク用プリント				

学科	美容科	担当教員	小池		
科目名	衛生管理(衛生管理)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	①実務で使える技術知識を習得する②国家試験対策としても授業を進める③グループワークを通してコミュニケーション能力を向上させる④皆に自分の考え方を整理して伝達する機会とする				
授業回	学習内容			備 考	
1	①第1章1章～3節 基礎ワードと基礎理論に関する国家試験過去問題の分析と、整理した内容をA4用紙にまとめる ②計算問題をグループ単位で説き版書発表				
2	①〈理学化学消毒法8法のまとめ表〉の作成 ②グループ毎に作成したまとめ表の掲示とグループ間の相互評価			前回授業の小テスト 実施	
3	①〈理学化学消毒法8法のまとめ表〉を覚える。 ②消毒法に関する過去問題「血液編」の分析 ③計算問題をグループ単位で解き、ホワイトボードを用いて発表する			前回授業の小テスト 実施	
4	①〈化学消毒8法の特徴表〉の作成 ②グループ毎に作成した特徴表の掲示とグループ間の相互評価			前回授業の小テスト 実施	
5	①〈化学消毒8法の特徴表〉を覚える ②消毒法に関する過去問題「消毒特徴編」の分析 ③計算問題をグループ単位で説き版書発表			前回授業の小テスト 実施	
6	①〈材料別消毒方法〉について教科書の重要点穴埋め資料を完成させる ② 計算問題をグループ単位で解き、ホワイトボードを用いて発表する			前回授業の小テスト 実施	
7	①理学的消毒法・化学的消毒法に関する過去問題・類似問題を分析する ② 計算問題の過去問題・類似問題を分析する。(①②ともにテスト形式)			前回授業の小テスト実施	
到達目標	実務に就いたときに必要となる知識技術を習得する				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	前回授業の確認資料(テスト形式)、ワーク用プリント				

学科	美容科	担当教員	田島		
科目名	保健（人体）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	人体の構造(解剖学)と機能(生理学)を理解し、特に頭頸部について深い知識を習得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章 頭部・顔部・頸部の体表解剖学	第2章	骨格器系	偶数回に確認テスト	
2	第3章 筋系			同上	
3	第4章 神経系			同上	
4	第5章 感覚器系			同上	
5	第6章 血液・循環器系			同上	
6	第7章 呼吸器系			同上	
7	第8章 消化器系			同上	
8	人体の構造と機能に関する試験			定期試験	
到達目標	頭や顔を中心とした美と健康に携わる美容師にとって、必要不可欠な人体の基礎的知識を習得する				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。但し、所定授業時間数(全体の2/3)を下回る学生は受験できない				
テキスト	保健（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	美容科	担当教員	田島		
科目名	保健(皮膚科学)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	皮膚科学を詳細に学ぶことにより、皮膚と毛髪健康管理ができる深い知識を習得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章 皮膚の構造			偶数回に確認テスト	
2	第2章 皮膚付属器官の構造-1			同上	
3	第2章 皮膚付属器官の構造-2			同上	
4	第3章 皮膚の循環系と神経系			同上	
5	第4章 皮膚と付属器官の生理機能-1			同上	
6	第4章 皮膚と付属器官の生理機能-2 第5章 皮膚と付属器官の保健-1			同上	
7	第5章 皮膚と付属器官の保健-2			同上	
	皮膚科学に関する前期試験			定期試験	
8	第5章 皮膚と付属器官の保健-3			偶数回に確認テスト	
9	第5章 皮膚と付属器官の保健-4			同上	
10	第6章 皮膚付属器官の疾患-1			同上	
11	第6章 皮膚付属器官の疾患-2			同上	
12	第6章 皮膚付属器官の疾患-3			同上	
13	第6章 皮膚付属器官の疾患-4			同上	
14	第6章 皮膚付属器官の疾患-5			同上	
15	皮膚科学に関する後期試験			定期試験	
到達目標	美と健康に携わる美容師にとって、必要不可欠な皮膚科学の基本的知識を習得する。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。但し、所定授業時間数(全体の2/3)を下回る学生は受験できない。				
テキスト	保健 (日本理容美容教育センター指定教科書)				

学科	美容科	担当教員	村田		
科目名	化粧品化学	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	化粧品に用いられる薬剤の成分や効能を学ぶことを通して理容師・美容師に必要な化学的分野の知識習得を目指す。				
授業回	学習内容			備 考	
1	導入、化粧品の定義、取り扱い 【基礎化学】物質の構成				
2	水性・油性原料 【基礎化学】物質の量、溶解、コロイド				
3	界面活性剤 【基礎化学】酸・塩基				
4	高分子化合物、色材、香料				
5	配合成分（防腐剤・殺菌剤・紫外線吸収剤・酸化防止剤・収れん剤）				
6	基礎化粧品 ネイル・まつ毛エクステンション材料				
7	メイクアップ用化粧品（ベースメイクアップ・ポイントメイクアップ）				
8	ヘア用化粧品①（シャンプー・パーマ・カラー）				
9	ヘア用化粧品②（シャンプー・パーマ・カラー）				
10	芳香製品・特殊化粧品（サンケア製品）				
11	総合問題演習①				
12	総合問題演習②				
13	総合問題演習③				
14	総合問題演習④				
到達目標	理容師・美容師の通常業務における使用薬剤などの効能や手法などの知識習得				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。また、定期的実施する小テストの成績も評価に加味する				
テキスト	化粧品化学（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	美容科	担当教員	高橋		
科目名	文化論	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	14
教育目標・ ねらい	日本と西洋の歴史の中に見る美容が時代背景の中でどのような美しさを求めてきたかを考える。美の成り立ちやあり方を知ることで、新しいデザインへの創造力を高め、お客様からコンセンサスを得るために必要な知識を身に付ける。				
授業回	学習内容			備 考	
1	文化論を学ぶ目的、日本の美容業の歴史 【到達目標】文化論を学ぶことで得られる考察について話し合う。理美容業の成り立ちや法律について理解し、将来の美容業界の動向や将来性について私見を持てるようになる。			小テスト実施	
2	近代（明治・大正・昭和20年まで）の髪型・化粧・服装 【到達目標】西洋文化の導入から戦争への歴史的流れや女性の社会進出に至る経緯を考える。世相を反映した文化を髪型・化粧・服装で区別できるようになる。				
3	現代（1945年～2000年代以降）の髪型・化粧・服装 【到達目標】第2次世界大戦後の復興と高度経済成長期の海外からの影響を考える。生活文化の向上に伴う、若者文化・流行の風潮を理解する。1980年代以降の人々の価値観の多様化により、トレンドも多様化した、それぞれの潮流について区別できるようになる。				
4	礼装の種類 【到達目標】男女の礼装(洋装・和装)を学び、正しい装いを理解する。美容理論IIの教科書を使用し、着付技術の知識に結びつけて理解する。				
5	練習問題（礼装の種類 現代の文化） 【到達目標】1945年以降の髪型・化粧・服装について、また礼装の種類や特徴について問題形式で復習し、理解していないところを確認する。			小テスト実施	
6	練習問題（近代の文化） 【到達目標】明治・大正・昭和20年までの髪型・化粧・服装について、問題形式で復習し、理解していないところを確認する。			小テスト実施	
到達目標	時代における流行の背景からファッション(髪型・化粧・服装)の移り変わりを学び、各時代の流行を理解する。				
評価方法	①授業への取り組み方 10% ②小テスト 10% ③前期・後期の学科試験 80% なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本理容美容教育センター指定教科書「美容文化論」、「美容技術理論II」、プリント				

学科	美容科	担当教員	高橋、杉下		
科目名	文化論（ファッション学）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	ファッション全般についての知識を得る				
授業回	学習内容			備 考	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ファッションとは</li> <li>①ファッション業界について/日本の企業の流れについて</li> <li>②アパレルとは</li> </ul>				
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ファッションと社会 時代の流れ、つながりについて</li> <li>①流行とは(カラー含む)</li> <li>②時代の流れとファッションのつながり</li> <li>③デザイナーとブランドについて (世界の有名ブランドからみる)</li> </ul>				
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コーディネートとは</li> <li>①スタイリング第1条件とは</li> <li>②イメージ作り</li> <li>③Itemと名称について</li> </ul>				
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全授業を踏まえて現在のファッションと今後のファッションについて自分たちの時代として考え表現する (グループワークを予定)</li> </ul>				
到達目標	ファッション=社会・時代を考え、コーディネートに挑戦できるようになる				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。また、定期的実施する小テストの成績も評価に加味する。				

学科	美容科	担当教員	星野、古荘		
科目名	文化論(フォト)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	ポートレート写真撮影をベースに、良い写真とはどういうものか（アングル、明度、彩度、フォーカスなど）を学習する。美容写真撮影の工程が理解できるようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	フォト授業の目的について スマホ使用での「アングル」学習、一眼レフカメラの扱い方				
2	一眼レフカメラによる、各種設定と、その効果について				
3	一眼レフカメラによる、各種設定と、その効果について				
4	作品撮り				
到達目標	サロンなどで行っている「作品撮り」をどのように行っているのか理解できるようになる また、簡単な作品撮影が出来るようになる				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	オリジナルテキスト「美容フォト」「美容フォト設定編」使用。				

学科	美容科	担当教員	畑中		
科目名	運営管理（マーケティング論）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	仮想店舗の創作を体験したり、「運営管理」のテキストで理論を習得したりすることで、将来、サロン内外で管理業務的職務の遂行が必要になった場合に対応できるようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	テキストを活用し、労働基準法の学習と「社会保険知識」の復習 【到達目標】 サロンの労務管理の概略を説明できるようになる				
2	「運営管理」テキストを活用した「接遇」「価値」の習得 【到達目標】 美容業のサービスの価値の中身を説明できるようになる				
3	テキストを活用した「マーケティング知識」の習得と小テスト 【到達目標】 美容業のマーケティングで押さえるポイントを説明できるようになる				
4・5	貯金の大切さの理解と班別に創作したコンセプトの確認 【到達目標】 マーケティングとは何か。どのように差別化された店舗コンセプトを作った ら良いのかを説明できるようになる				
6・7	班別に作成した仮想店舗の損益計算の確認 【到達目標】 なぜこのぐらい売上が必要なのかを説明できるようになる				
8	テキストを活用し、財務、税務、労基、社保の復習と全体の小テスト 【到達目標】 サロン運営はどのようにするのかの概略を説明できるようになる				
到達目標	サロン運営の基礎知識を学び、将来的に、店舗オーナーや管理者になったときに役に立つ知識を仮想体験すると同時に、国家試験科目の「運営管理」に対応できるものとする。				
評価方法	個別の知識については、前期と後期にテストを行い、その点数により、また、市場創造力については、発表内容によって評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	「運営管理」（日本理容美容教育センター指定教科書）、配布プリント				

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留		
科目名	美容技術理論	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	90
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解することが出来るようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	まつ毛エクステンション/まつ毛エクステンション技術に必要な用具類とテールセッティング方法、基本的技術の目的と手順、施術時の注意事項を理解する。				
2～4	総合理論/美容技術理論教科書1, 2から国家試験に出題傾向の高い箇所を復習し、過去問を解ける。				
5～14	学科模試/ペーパーテストを行い100点満点中60点以上取得する				
15	<b>学期末試験</b> /これまでの知識をペーパーテストにて測定する(100点満点中60点合格)				
16～35	総合理論/美容技術理論教科書1, 2から国家試験に出題傾向の高い箇所を復習し、過去問を解ける。				
36～44	学科模試/ペーパーテストを行い100点満点中60点以上取得する				
45	<b>学期末試験</b> /これまでの知識をペーパーテストにて測定する(100点満点中60点合格)				
到達目標	美容技術における用具・器具の取り扱い、衛生措置を十分理解し、美容師としての基礎的技術を習得する。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目:各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留		
科目名	美容実習 (カット〔レイヤースタイル〕)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	80
教育目標・ ねらい	頭部の形状を理解させ、指定したアウトラインおよび長さに対して正しくレイヤースタイルを作成することができるようにする。施術面の高さや向きに応じて、正しい作業姿勢をとれるようにする。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1・2	完成形したスタイルの解説展示、ブロッキング、フロントの切り方 /スタイル及びブロッキング構成を理解する。フェイスラインの毛髪を水平に引き出すことができる。			延べ4時間	
3～6	ヘムライン、アンダーセクションの切り方 /正確な毛髪の引き出しによってヘムラインを形づけ、ヘムラインとアンダーセクション共に左右対称にカットができる。			12	
7・8	ミドルセクション、オーバーセクション /オーバーダイレクションを理解し、長さの違うガイド同士を繋げることができるようになる			16	
9・10	フロントオーバー、テックカット /バックセクションから長さの短いフロントのガイドまで、長さ調節をしながら繋げることができる。審査ポイントを理解し整えることができる。			20	
11～20	全頭復習カット /各セクションの注意事項を復習しながら全頭をカットすることができる。			24	
21～38	全頭復習カットタイム入れ /時間を意識してレイヤースタイルを作成することができる。			24	
40	セიმレングス実技試験 /定められた時間内にレイヤースタイルカットができる。			26	
到達目標	頭部の形状を理解したうえで、指定したアウトラインおよび長さに対して正しくレイヤースタイルを作成することができる。スタイルの構成を理解したうえで作成することができる 美容科DP②・③、CPⅢ～Ⅴに該当				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留		
科目名	美容実習 (パーマ〔スタイル巻き〕)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	50
教育目標・ ねらい	頭の丸みを理解しオンベースとオフベースの違いを理解させる。スライスを任意にとることができ、任意のベースで適切に巻き収めることができる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1	国家試験課題の確認(パーマとの違い)、ワインディング理論のおさらい /ワインディング技術の違いを理論的に説明できる。			延べ2時間	
2	10ブロッキング、第2ブロック展示・練習/左右対称にロッド幅でブロッキング がとれる、スライスを平行にとり第2ブロックを巻き収められる			4	
3・4	前回のおさらい、第3、4ブロック展示練習 /オフベースに巻き収める際の留 意点理解し、巻き収めることができる。			8	
5・6	センター(第2～4ブロック)練習、タイム入れ /オンベースとオフベースを適切に巻き分けることができる。			12	
7・8	フロント(第1ブロック)展示・練習 /フェイスラインに対してラウンドして巻き収めることができる。			16	
9～11	右バックサイド、ネープ、サイド展示・練習 /任意のスライスに対して直角に巻き収めることができる。			22	
12～15	左バックサイド、ネープ、サイド展示・練習 /左右のシンメトリーを意識して巻き収めることができる。			30	
16～20	全頭巻き練習、タイム入れ(35分) /センターを平行かつ左右対称に巻き収めることができる。			40	
21～24	全頭タイム入れ(30～25分) /定められた時間内に留意点すべてを押さえて巻 き収めることができる。			48	
25	全頭25分試験 /25分間で国家試験合格水準の作品を作り上げることができる。			50	
到達目標	基礎となる上・下巻きにおいて、オン・オフベースを巻き分けることができる。任意に とったスライスに対して巻き収まりや完成形を想像して適切に巻き収めることができる。 左右対称に巻き収めるための留意点を説明できる。 美容科DP②・③、CPⅢ,Ⅳに該当				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は 受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目:各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力 となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留		
科目名	美容実習 (リアシャンプー)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	サイドシャンプーとの違いを理解させ、技術上の注意点を把握させる。また、その特徴からそれぞれの技術や処理との相性を認識させる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1	リアシャンプー理論、サイドとの差異の説明、手順説明 /サイドとリアの違いを説明できる。			延べ2時間	
2	教室にてウィッグで手順確認・練習 /理論上の注意点を説明できる。			4	
3・4	実習室の使用方法と注意、プレーンリンス～シャンプー /施設の使用法と注意について説明できる。			8	
5～10	シャンプー～マッサージ～ブロー練習・タイム入れ /手順を認識し、適切に施術できる。			20	
11・12	シャンプー～ブロー一連テスト /定められた時間内に施術を完了することができる。			24	
13	ヘッドスパ理論、手順説明・練習(教室にてウィッグ) /ヘッドスパの目的と手順を理解する。			26	
14・15	ヘッドスパ練習、ペーパーテスト /頭部の形状に対して適切な手技が施せる。ペーパーテストはこれまでの施術 工程と意味合いの理解ができている。			30	
到達目標	リアシャンプー特有の利点・注意点をそれぞれ把握し、他の技術との関連や顧客の状態等からサイド・リアの選択ができる。 美容科DP①・②、CPⅠ,Ⅲ,Ⅳに該当				
評価方法	ペーパーテスト(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留		
科目名	美容実習 (リアシャンプー)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	リアシャンプーの特徴でもある、リラクゼーション技術との関連性を理解させ、キャリアにおける幅を持たせる。技術から販売促進(現場的技術)の想像をさせる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1	前期復習、ヘッドスパ理論説明、手順確認(座学) /ヘッドスパのプロセスを説明できる。			延べ2時間	
2・3	リアシャンプー復習、ヘッドスパ練習 /シャンプーとヘッドスパの意義の違いを説明できる。			6	
3・4	ヘッドスパ練習(タイム入れ) /定められた手順でヘッドスパを施術することができる。			8	
5	顧客に適性のある商品の選定について(毛髪化学の観点から) /頭皮と毛髪の状態に応じて必要となる成分が説明できる。			10	
6～13	ヘッドスパ、販売促進練習(タイム入れ) /定められた時間内に一連の技術の提供、ならびに顧客の毛髪の状態を正確に把握し、商品の推薦ができる。			26	
14・15	ヘッドスパ実技試験、販売促進(毛髪化学)学科試験 /定められた時間内に技術においては手順として、知識においては事例対応という形で能力を発揮することができる。			30	
到達目標	リラクゼーションという技術の需要を理解し、それと関連して商品の販売や他の技術の販売促進の想定をできる。マッサージ技術による頭皮・毛髪に対する効果を説明できる。 美容科DP①・②・⑤、CPⅠ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅶに該当				
評価方法	各期実技試験(100点満点)、学科試験(100点満点)で総合的に評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留		
科目名	美容実習 (オールウェーブセッティング)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	100
教育目標・ ねらい	基礎となるコームの持ち方、運指を身につけさせ、作業面と姿勢の関係を理解させる。毛髪の扱いを習得させ、任意の形状に形成し留めることができるようにする。頭部の形状と毛髪の流れのつながりを理解させ、仕上がりを想像できるようにする。				
授業回	学習内容/本時の到達目標				備 考
1～4	ウィッグ作製、ローション塗布、コームの持ち方説明 /ウィッグの適切なコンディションを判断できる。				延べ8時間
5	ヘアセッティング理論、授業の流れ説明(フル・オールウェーブ) /理論的に完成形の構成及び授業の進行を説明できる。				10
6・7	1段目くり抜き、ウェーブ・リッジ展示・練習 /基礎となるコームの持ち方、動かし方ができる。				14
8・9	2.3段目ウェーブ・リッジ展示・練習 /頭の丸みに沿ってハーフウェーブを形成することができる。				18
10～12	4～7段目ウェーブ・リッジ展示・練習 /頭部の形状、作業面に合わせて適切な作業姿勢をとることができる。				24
13～15	フルウェーブ練習 /頭部の形状に沿ってフルウェーブを形成することができる。				30
16～24	フルウェーブタイム入れ(50～25分) /定められた時間内に任意のフルウェーブを形成することができる。				48
25	フルウェーブ25分チェック /25分間で意図したフルウェーブが形成でき、失格事項についても審査対象とならない。				50
26・27	1段目ピンカール展示・練習 /任意の範囲でハーフウェーブを形成することができる。				54
28・29	1段目復習、3段目スカルプチュアカール展示・練習 /フラットカールの要点を理解し、作り上げることができる。				58
30・31	1.3段目復習、4段目以降ブロッキング、4段目Cカール展示・練習 /フルウェーブのつながり、頭部の部位ごとのバランスを理解し、カールスペースを分けとることができる。				62
32・33	1～4段目復習、5段目CCカール展示・練習 /ウェーブとのつながりを意識して、カールを形成することができる。				66
34・35	1～5段目復習、6段目メイポールカール展示・練習 /カールにおける毛先の処理、ピニングが適切にできる。				70
36・37	1～6段目復習、7段目クロッキノールカール展示・練習 /作業面の変化に対して、適切な姿勢をとり、カールを形成できる。				74

授業回	学習内容/本時の到達目標	備考
38・39	3～7段目各カール練習 /各カールの作成手順を説明できる。	78
40・41	オールウェーブ練習、国家試験構成確認 /オールウェーブの規定を説明できる。	82
42～49	全頭タイム入れ(50～30分) /任意のウェーブ、カールを形成することができる。	98
50	全頭30分実技試験 /30分間で規定内のオールウェーブを形成することができる。	100
到達目標	作業面の変化に対して、身体の距離・姿勢を変えることができる。仕上がりを想像して毛髪 の形状を任意に形成し、ピンを用いて留めることができる。 美容科DP②・③、CPⅢ～Ⅴに該当	
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は 受験することができない	
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う	

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留		
科目名	美容実習 (ヘアカラーリング)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10
教育目標・ ねらい	各染毛剤・料の性質から、任意の色調・デザインを表現することができるようにする。目標とする色を表現したうえで、全体のデザインへと昇華させる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1	カラーチャート作成(毛束のブリーチ) /脱色剤の性質を再確認し、説明できる。			延べ2時間	
2	カラーチャート作成(各毛束の染毛) /毛髪の状態による発色の変化を説明できる。			4	
3	グラデーション、バレイヤージュ、ハイライト /手順、塗布量等によるデザインの違いを説明できる。			6	
4	デザイン考想・決定、デザインシート記入 /現状の知識と技術から実現可能なデザインを想定することができる。			8 トータルデザイン として考想	
5	デザインカラーウィッグの作成 /想定したデザインへの道筋を論理的に組み立てることができる。また、差異を認識し、改善策を考えることができる。			10 評価の対象とする (加点項目)	
到達目標	各染毛剤・料の性質を理解したうえで、毛髪の状態から仕上がりを想定し、任意のデザインを目指すことができる。 美容科DP②・③・⑤、CPⅢ～Ⅴ,Ⅶに該当				
評価方法	仕上がり・独自性・想定デザインの実現率から総合的に判断し、4段階(A～D)で評価する。 なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る出席者は評価対象としない。 ※ 各クラス代表ウィッグを2台選出し、公式インスタグラムにて掲載				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留		
科目名	美容実習 (美翔祭)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	90
教育目標・ ねらい	これまで学んだ美容知識、技術を出し合いヘアショーを完成させると共に、ひとつの企画を実施するにあたり、グループとして複数人が携わる経験を通して、人間関係の構築の大切さや難しさを学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1～10	ヘアショーの企画立案/これまで学んだ美容技術で自分たちの表現したいショーの案を出し合いプレゼンテーションをする			延べ20時間	
11～20	モデルカルテの作成/企画したヘアショーに対してのイメージをモデルカルテを通して表現できる			40	
21～40	モデル実習/各チームに分かれ企画したヘアショーに対してのイメージを人間モデルを通して表現できる			80	
41～45	ヘアショー演習/本番を想定したヘアメイクとモデルウォーキングができる			90	
到達目標	自身の技術レベルの客観的把握ができ、グループワークの困難さとやり遂げた時の達成感を身をもって体験することにより、美容サロンで働くことへの理解をより深めること				
評価方法	ヘアショーの完成とモデルカルテの提出および作品制作により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	大塩		
科目名	美容美術（造形学とデザイン）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	24
教育目標・ ねらい	構成力・造形力・表現力を身につける。自分自身について知る。				
授業回	学習内容			備 考	
1	〈立体造形1〉 コピー用紙（または新聞紙）を使用。時間内に頭部に装着できるヘッドピースを作ります。造形を通じて頭部の構造をよく知り、また多角的に作品を作り上げることへの意識を高めます				
2	〈立体造形2〉 ブルーシート一枚を使用。時間内に自由に加工し、人体の全身に装着できる立体作品を作ります。全体のバランスを確かめながら、多角的に作品を作り上げることへの意識を高めます。グループワーク				
3	〈伝えるデザイン1〉 雑誌の見開き面をデザインします。特集内容は「My Style」。他者に見せることを前提に内容をまとめます。横向きのA3ケント紙を雑誌面に見立て、記事を作成します				
4	〈伝えるデザイン2〉 雑誌の見開き面をデザインします。特集内容は「My Style」。他者に見せることを前提に内容をまとめます。横向きのA3ケント紙を雑誌面に見立て、記事を作成します				
5	〈頭部マネキンを使用した造形1〉 練習用マネキン（カットウィッグ）を使った立体造形の制作。 背景まで含めたトータルで世界観を表現します				
6	〈頭部マネキンを使用した造形2〉 練習用マネキン（カットウィッグ）を使った立体造形の制作。 背景まで含めたトータルで世界観を表現します				
7	〈頭部マネキンを使用した造形3〉 練習用マネキン（カットウィッグ）を使った立体造形の制作。 背景まで含めたトータルで世界観を表現します				
8	〈頭部マネキンを使用した造形4〉 練習用マネキン（カットウィッグ）を使った立体造形の制作。 背景まで含めたトータルで世界観を表現します				
9	〈頭部マネキンを使用した造形5〉 練習用マネキン（カットウィッグ）を使った立体造形の制作。 背景まで含めたトータルで世界観を表現します				
10.11	〈自由制作1〉 テーマは「美」。制作相談や作業				
12	〈自由制作2〉 テーマは「美」。作品発表と鑑賞				
到達目標	構成力・表現力を身につける。主体性をもって自己表現することで達成感を実感する。視野を広げ、芸術に対する理解を深める。				

評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。
テキスト	随時配布

学科	美容科	担当教員	武智		
科目名	美容美術(店舗設計)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	6
教育目標・ ねらい	店舗設計を通じて、お客様（社会）が求めるサロンを自らが考える力を身につける				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	最新の店舗デザインと理美容業界のマーケティング 【到達目標】 (1) 様々な店舗を知り、将来造りたい(勤めたい)サロンをイメージする (2) 理美容業界の過去の変遷を学び、今後の社会が望むサロンづくりを考える				
3・4	店舗に関わる法的概要と店舗レイアウトの考え方 【到達目標】 (1) 理美容師法を理解し、開業時に必要な事項を身に付ける (2) 行動学・心理学に基づき、儲かる店のレイアウトの考え方を身に付ける				
5・6	色と光（照明）の基礎知識と演出手法と受講レポート作成 【到達目標】 (1) 色は光によって見え方が変わり、技術がより良く見える演出手法を身に付ける (2) 各講義の理解度および受講生の興味項目を知る				
到達目標	各講義の基礎知識を身に付け、勤めたい店（開業したい店）のイメージを作り上げる				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	パワーポイントでの映像およびプリント (実際にタカラスペースデザイン(株)で施工した最新の店舗デザインパネルを使用)				

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留		
科目名	表現技術 (OA)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	選択	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	生涯活躍できる美容師を目指す上で必要となる、ITリテラシーやSNSマーケティングの基礎となる知識を修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1	ITの基礎、SNSの種類と活用方法/基本的なITリテラシーと各種SNSの違いと活用方法を理解する				
2	インスタグラムの各種機能と運用方法についてとアカウント開設/ターゲット(ペルソナ)を明確にし、世界観(ユーザーメリット)統一したアカウントを設置する				
3・4	フィード投稿用写真撮影(被写体:人物)/開設したインスタグラムの世界観に合う写真を撮影する				
5・6	フィード投稿用に撮影した写真を投稿する/投稿に「タグ付け」と「メンション」を追加し追加機能の使い方を修得する				
7~9	リール投稿用の企画と動画撮影(被写体:人物)/ユーザーの求めるものを先回りした情報発信を心がけた企画と撮影方法を修得する				
10~13	リール投稿用の動画撮影および編集(被写体:人物)/リール投稿用の動画編集方法を修得する				
14・15	これまで学んだ撮影方法を活かし、作品投稿をする/自身が開設したアカウントの世界観に合う写真および動画を撮影し投稿する				
到達目標	ITの基礎知識、SNSの仕組みと基本的操作を学び、美容師におけるたどしいSNSの運用方法を身に付ける				
評価方法	インスタグラムで開設したアカウントの投稿数、フォロワー数、最大いいね数を基に5段階で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	配布プリント				

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留		
科目名	ビジネスマインド	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	社会人・職業人として、組織の中で自分が振る舞うビジネスマナーを正しく理解し行動変容を行う 加えて、自身の課題に向き合う課題発見能力や問題解決能力を養い、 <u>自律した思考と行動の実践。</u>				
授業回				備 考	
1	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー（復習） 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上のコミュニケーション、6-3 PDCA」 【到達目標】 職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。			ビジネス マナーテキスト P.51～54	
2	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い（復習） 「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」 【到達目標】 『品性』のある身のこなしを学び、実践する。			ビジネス マナーテキスト P.10～15	
3	LESSON3 言葉遣い①「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】 職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネス マナーテキスト P.16～24	
4	LESSON3 言葉遣い②「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】 職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネス マナーテキスト P.16～24	
5	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】 『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテン シーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える			オリジナル教材 Powerpoint KJ法ワークショップ	
6	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】 『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテン シーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える			オリジナル教材 Powerpoint KJ法ワークショップ	
7	LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】 『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテン シーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える			プレゼンテーション	
8	クラス目標・個人目標振り返り			クラスミーティング	
到達目標	社会人として自分の立ち位置や直面する状況を理解し、適切な対応をとることができる。 このことにより組織の一員として認められるようになる。				
評価方法	個人目標振り返りによる自己評価と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授 業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	ビジネスマナーテキスト				

学科	美容科	担当教員	菅野		
科目名	高度総合美容技術理論 (美容英会話)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10
教育目標・ ねらい	1. 美容サロンのシチュエーションで、ボキャブラリの学習を主体として将来に役立てる 2. シンプルな文系を繰り返し使い、実用的なフレーズの定着を図る 3. アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施する				
授業回	学習内容			備 考	
1	Warm Up - 5minutes, Review (1) of Unit 1 - Unit 4, ・ Unit 1 - Unit 4 の復習 Unit 8 Perming				
2	Warm Up - 15 minutes, Review(2) of Unit 5 - Unit 8 ・ Unit 5 - Unit 8の復習 Unit 9 Colouring ・ヘアカラー関連のボキャブラリとダイアログ				
3	Warm Up - 10~15 minutes Unit 9 の復習 Unit 11 - Advice ・ アドバイス関連のボキャブラリとダイアログ ・ 自己紹介の仕方、翌週のプレゼンのための説明 ・ Self-introduction の準備 <b><i>For homework, prepare to make a one-minute self-introduction oral presentation in the next class.</i></b>				
4	Warm Up Unit 12 Payment ・支払時の会話 Self-introduction practice 1 ・ 自己紹介の練習 1回目 (各自1分間) Make oral presentations in groups of 5. Each presentation should last one minute. <b><i>At home, students should improve their presentations and make them longer (two minutes.)</i></b>				
5	Warm Up - 5minutes, Review (3) of Unit 9 - Unit 12 ・ Unit 9 - Unit 12 の復習 Self-introduction practice 2 ・ 自己紹介 2回目 (各自2分間) Students make self-introduction presentations again in groups of 5. This time, each presentation should be two minutes long. ・ テスト (20分)				
到達目標	アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施し、将来に役立てる。				
評価方法	最終日に実施する小テスト(100点満点)より評価する。なお、所定授業時数 (全体の2/3) を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	English for Beauty Salons				

学科	美容科	担当教員	井川		
科目名	高度総合美容技術理論 (美容広告宣伝)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択の 別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	<p>マーケティング活動における広告の基本知識を学び、美容業界における広告戦略の考え方や効果的な広告の表現方法を学ぶ。従来のアナログ広告とデジタル広告を対比させながら各媒体の特徴と活用方法を理解する。</p> <p>特にサロン集客で重要なコンテンツマーケティングについての基本を解説、どのようなメッセージや情報をどのようなデジタルツールを使って発信すればユーザーの興味・共感を惹きつけられるか等について学ぶ</p>				
授業回	学習内容			備 考	
1	<b>広告の概要について</b> <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広告と広報の違いについて説明できる</li> <li>・ 美容業界の市場データを把握する</li> <li>・ 顧客に合わせた適切なアプローチ方法を理解する</li> <li>・ マーケティングの知識が深まり販売戦略について考える</li> <li>・ サロンのUSPについて考えることで競合との差別化の図り方が分かる</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参考資料 東京経済「業界地図」 ホットペーパー・アカデミー「美容業界データ」、 アンデッシュ・ハンセン「スマホ脳」、 帝国データバンク「景気業界動向」</li> </ul>	
2	<b>デジタル化とコンテンツマーケティングについて</b> <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 急速に進むデジタル化が美容業界にもたらす影響について説明できる</li> <li>・ 今後の美容業界で求められるスキルについて理解する。</li> <li>・ オンラインコミュニケーションの必要性和各SNSの特徴を知る</li> <li>・ コンテンツマーケティングについての概要を理解する。</li> <li>・ ユーザーを分析して適切なアプローチ手段が分かる</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参考資料 ロジャー・ドゥーリー「脳科学マーケティング」、 ドルー・エリック・ホイットマン「現代広告心理技術」</li> </ul>	
3	<b>コピーライティングについて</b> <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品やサービスの特徴を魅力的に伝えることができる。</li> <li>・ ターゲットに合わせた効果的な伝え方を理解する</li> <li>・ キャッチコピー、セールスライティング技術を身に着ける</li> <li>・ 脳科学マーケティングについて興味・関心を持つことができる</li> <li>・ 潜在的な顧客に対して購入を促すことができるようになる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参考資料 ジョン・ケープルス「ザ・コピーライティング」</li> </ul>	
4	<b>ホームページ作成 (WordPress)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サイト作成ルーツ (Word P ress) 他CMSの基本操作を知る</li> <li>・ 基本的なデザイン、レイアウトの知識を身につける</li> <li>・ アクセス解析について理解し説明ができる</li> <li>・ ランディングページ (LP) についての作り方がわかる</li> <li>・ ネット販売の知識が身に付く</li> <li>・ サロン売り上げに貢献できるスキルが身に付く</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用アプリ WordPress、Google Analytics、etc</li> </ul>	

到達目標	<p>広告に関心を持つことで、人の心理を理解し、相手に応じた適切なコミュニケーションが取れるようになる</p> <p>DX化に向けて、これからの社会で求められる能力を把握し、必要とされるスキルを習得させる。</p> <p>脳科学マーケティングに興味、関心を持つことで、発信者の意図を探り、客観的に情報を読み解く力と判断力が身に付く。</p> <p>コピーライティングのスキルを身につけることで、効果的な発信方法で、集客促進や売上向上に貢献できるようになる。</p>
評価方法	<p>学生には毎回授業終了時にオンラインでの確認テストを実施（予定）</p> <p>なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。</p>
テキスト	<p>教材：配布資料（毎回A4、2頁程度）、特設サイトに教材をアップし、学校以外からでも学習に活用。利用履歴を確認</p>

学科	美容科	担当教員	漆原		
科目名	高度総合美容技術理論 (簿記)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12
教育目標・ ねらい	サロン経営に必要な財務的視点の習得				
授業回	学習内容			備 考	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>簿記の基本的な考え方、勘定科目について</li> <li>【到達目標】 資産・負債・資本・収益・費用に属する勘定科目に関する知識の学習し、正しく説明することができる。</li> </ul>				
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務三表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の概要）</li> <li>【到達目標】 簿記の基礎的事項である借方・貸方の意味を理解し、損益計算書・貸借対照表の体系を把握し、正しく説明することができる。</li> </ul>				
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>収益構造（店舗経営における、財務的視点）</li> <li>【到達目標】 収益・費用の種類と認識・測定の基準を学習し、様々な形態の収益について、実現主義を適用する際の工夫や実現主義の例外として利益に発生主義や現金主義を適用する例を理解し、正しく説明することができる。</li> </ul>				
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>損益分岐点（損益分岐点及び不随する事項における店舗経営の実例）</li> <li>【到達目標】 損益計算書の意義を理解し、作成方法を理解し表にすることができる。</li> </ul>				
5	復習				
6	グループワーク				
到達目標	グループごとに店舗の収益構造をしっかりと理解できるようになる				
評価方法	確認テスト(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	プリント				

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留		
科目名	高度総合美容技術実習 (資格試験課題 第一課題)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	90
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第一課題を合格レベルまでの技術を修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1～20	国家試験課題レイヤースタイルの復習/指定課題を完成させることができる				
21～60	国家試験課題レイヤースタイル一連タイム入れ (20分) /時間を意識して完成させることができる。				
61～90	国家試験課題レイヤースタイル一連タイム入れ (19分) /時間を意識して完成させることができる。				
到達目標	資格試験課題第一課題の基礎を理解し、合格レベルまでの技術を修得する				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数 (全体の4/5) を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留		
科目名	高度総合美容技術実習 (資格試験課題 第二課題)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	90
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第二課題を合格レベルまでの技術を修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1～20	国家試験課題第二課題の復習/指定課題を完成させることができる				
21～60	国家試験第二課題一連タイム入れ（国家試験指定タイム） /時間を意識して完成させることができる。				
61～90	国家試験第二課題一連タイム入れ（国家試験指定タイム-1分） /時間を意識して完成させることができる。				
到達目標	資格試験課題第一課題の基礎を理解し、合格レベルまでの技術を修得する				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	立花		
科目名	高度総合美容技術実習 (毛髪化学)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	24
教育目標・ ねらい	医薬品医療機等法によって化粧品と薬用化粧品の違いを理解する事によって、プロとして必要な知識とお客様に適切な商品と技術を提供する				
授業回	学習内容			備 考	
1	医薬品医療機等法を正しく理解する 【到達目標】薬事法を理解する				
2	頭皮と髪の手組みをする 【到達目標】「禿げやすい」かどうかを見分けることができる				
3	総復習 【到達目標】プロとしてのカウンセリング術の理解☑				
4	シャンプー剤の成分を知る 【到達目標】成分の理解				
5	毛質にあった成分を知る 【到達目標】生分解性を理解				
6	気泡剤を知る 【到達目標】泡の種類を知る事で毛質を理解する				
7	香料を知る 【到達目標】香料と種類を理解と危険性の理解				
8・9	シャンプー製作 【到達目標】シャンプーを作ることによってお客さまにあった商品をアドバイスできるようになる				
10	シャンプーの臨床実験 【到達目標】制作した商品の問題点を考える				
11	問題点の解決を探る 【到達目標】デメリットをメリットに変える☑				
12	フライヤー製作 【到達目標】パンフレット/プレゼン資料を製作☑				
到達目標	(1) 頭皮から髪へのダメージを理解し、お客さまにあったカウンセリング方法を習得する (2) ヘアスタイルの提案と家庭でのヘアケアについてアドバイスできる施術者になる				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	(株)ミューズ研究所が作成したカウンセリングシートによる☑				

学科	美容科	担当教員	And Green		
科目名	高度総合美容技術実習 (香粧品製造と実験)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	6
教育目標・ ねらい	国家試験の意識と現場でも必要な知識を香粧品製造を通して学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	<b>【ヘアマニキュアの製造】</b> ヘアマニキュアの処方に配合されている成分と製造方法の解説、実際に製造を行いカラー剤に対しての知識を深める ヘアマニキュアの種類を知ることにより、今後の実践に必要な知識を身に着け体感する				
2	<b>【ヘアワックスの製造】</b> ヘアワックスの処方に配合されている成分と製造方法の解説、実際に製造を行いヘアスタイリング剤に対しての知識を深める ヘアスタイリング剤の種類を知ることにより、今後の実践に必要な知識を身に着け体感する				
3	<b>【ヘアスタイリングジェル、ヘアトリートメントオイルの製造】</b> ・ヘアスタイリングジェル、ヘアトリートメントオイルの処方に配合されている成分と製造方法の解説、実際に製造を行いインバスとアウトバストリートメントとの違いから配合量や成分に対しての知識を深める ヘアスタイリング剤のの種類を知ることにより、今後の実践に必要な知識を身に着け体感する				
到達目標	染色時のヘアカラー剤の種類や成分の作用の違いを理解し、製造できる。またヘアワックス、スタイリングジェルを通して、ヘアスタイリング剤の成分の違い使用方法を理解し、製造できる。				
評価方法	所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香粧品化学：日本理容美容教育センター</li> <li>・授業毎にプリント（処方）</li> </ul>				

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留		
科目名	高度総合美容技術実習 (匠すと)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	匠すと（校内コンテスト）の各競技内容に合わせて、美容技術理論の基礎および技術内容の理解をすることが出来るようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	匠すとの競技内容の理解と実施計画の作成 /各自が出場する競技内容が全て説明でき、当日までの計画を作成する				
2～6	各競技ごとにおいて仕込みを行う /計画に基づいた仕込みができています				
7・8	各競技ごとにおいて本番を想定したタイム入れ /競技規定に沿った作品を仕上げる事ができています				
9～15	【匠すと（校内コンテスト）】 /各競技規定に則り作品を完成させる				
到達目標	2年次に修得した技術を用いて、各競技ごとに応用力を発揮することができるようになる美容科DP②・③、CPIII,IVに該当				
評価方法	課題提出（競技内容によって提出内容は異なる）により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留・石井		
科目名	高度総合美容技術実習 (トータルビューティコース)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	選択必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	ヘアメイクやトータルビューティを美容師の教養として学び、ヘアセット、メイクの知識、技術を習得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	夜会巻き (バイアスリバー+サイド入れ込み) /面を綺麗に整えるスタイルの基礎ができるようになる				
2	フルメイク復習 /メイク授業で行ったフルメイクができる				
3	重ね夜会 (ツーポイント) /夜会巻きの応用ができるようになる				
4	似合わせメイク /モデルに似合ったメイクを理論を基にできるようになる				
5	カールダウンスタイル /カールアイロンの使用とスタイリングができるようになる				
6	似合わせメイク /モデルに似合ったメイクを理論を基にできるようになる				
7	ハーフアップスタイル /カールアイロンを使用しハーフアップスタイルができるようになる				
8	似合わせメイク /モデルに似合ったメイクを理論を基にできるようになる				
9	編み込みスタイル/三つ編み込み、四つ編み込み、ロープ編み込みを使用した スタイルができるようになる				
10	自分の顔のタイプ、パーソナルカラーを知ろう /パーソナルカラー診断ができるようになる				
11	夜会巻きスタイル復習 /面を綺麗に整えるスタイルの基礎ができるようになる				
12	キュートメイク /題材に沿ったメイクができるようになる				
13	自由創作/これまでの技術を用いてスタイルの考案から作成までできるよう になる				
14	フレッシュメイク /題材に沿ったメイクができるようになる				
15	自由創作/これまでの技術を用いてスタイルの考案から作成までできるよう になる				
16	クールメイク /題材に沿ったメイクができるようになる				

授業回	学習内容	備考
17	自由創作/これまでの技術を用いてスタイルの考案から作成までできるようになる	
18	トレンドメイク /題材に沿ったメイクができるようになる	
19	自由創作/これまでの技術を用いてスタイルの考案から作成までできるようになる	
20	創作メイク /これまでに習ったメイクを用いて自身の作品を表現できる	
到達目標	ヘアセット、メイクの知識、技術を習得し、モデルに合わせた技術が提供できる。	
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る出席者は評価対象としない。	
テキスト	プリント配布	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う	

学科	美容科	担当教員	若松・井上・佐藤・倉留		
科目名	高度総合美容技術実習 (ヘアデザインコース)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	ヘアデザイン制作に必要な展開図の知識、それを再現するためのカット、ブロースタイリングの技術を修得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1～3	カット（展開図）復習、国試カットウィッグを引き出して展開図作成、メンズスタイル展開図2種類/指定スタイルの展開図およびカットブロースタイリングができる			延べ6時間	
4～6	トレンドカラー、トレーニングクリームにて塗布練習、ブリーチ塗布+オンカラー/トレンドカラーの塗布を再現できる			12	
7～9	ダイレクションを使ったミディアムスタイル、ウルフレイヤースタイル/指定スタイルの展開図およびカットブロースタイリングができる			18	
10～12	メンズスタイル（マッシュ系）、メンズスタイル（刈り上げ）/指定スタイルの展開図およびカットブロースタイリングができる			24	
13～18	クリエイティブ作品模作/指定作品の展開図さくせいおよび模作ができる			36	
19～24	クリエイティブ作品作成（テーマ有）/テーマに沿ったイメージ図、展開図、カット、スタリングを作成する			48	
25～30	クリエイティブ作品作成（自由制作）、撮影、プレゼンテーション/テーマに沿ったイメージ図、展開図、カット、スタリングを作成しプレゼンテーションまで行う			60	
到達目標	スタイルの読み解き、展開図の作成、カットブロースタイリング技術を用いてそれらを再現する力が身についている。				
評価方法	作品提出とプレゼンテーションにより100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	技術テキスト（プリント）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				